

特集

糖尿病治療への取り組み

日本の糖尿病の患者数は、予備軍を含め1600万人に達するといわれ、これまで危険は少ないと考えられてきた糖尿病の前段階でも、狭心症や心筋梗塞の危険性が2倍になるなど、高齢期のQOLに深刻な影響を及ぼすことが明らかになってきています。訪問看護・介護を行なうときに知っておきたい糖尿病の最新知識について、次号はまず病院での取り組みに焦点をあてて特集し、続く11月号の「糖尿病の自己管理をいかにサポートしていくか」につなげていきます。

糖尿病とはどういう病気か 目黒周

糖尿病による合併症を防ぐためのケア 古山景子

自己管理の必要性和医療職のサポートについて 大橋健

食事療法指導について 幣憲一郎

運動療法指導について 林達也

薬物療法指導について 朝倉俊成

糖尿病を予防するための予備軍へのかかわり 坂根直樹

■特別記事

コムスン問題から見たメディアリテラシー 尾崎雄

■研究報告

障害児・者通所施設でのたんの吸引に見る看護と介護の協働 岡本豊子

■連載

時間を忘れて 天方晴子／訪問看護時時刻々 石田昌宏／もの忘れを補うモノたち—簡単な道具と機器を利用した認知症患者の日常生活支援 安田清／大牟田発！地域の縁側で認知症ケア 牧坂秀敏／わたしのことをわたしから 勇崎美枝子／在宅で療養するがん患者と家族のためのケアの手引き 福井小紀子／ほんとの出会い 岡田真紀／萌黄色のハンカチーフ 赤川次郎

編集
後記

●7月16日、新潟県中越沖地震が発生しました。被災地の皆様のご苦労は察するに余りあるものがあります。直接の被害を受けずとも、避難生活による影響は多大なものがあります。エコノミークラス症候群の兆候が見られる方も避難所内に2割弱いらっしゃるそうです。「備えあれば憂いなし」の精神で災害時要援護者名簿の作成と支援計画の策定が望まれます。弊誌7号の記事「能登半島地震の被災地から」もぜひご覧ください。……富岡
●認知症は中等度以上になると自分の判断や希望をうまく伝えることができなくなるから、ターミナルケアをどうしてほしいのか、どんな医療を受けたいのか自分の考えを表明する時間は、がん患者のように長くあるわけではない。初期の一時期のみ。決断の時間を逃してはならない……と、宮永氏。それは不安をもつ人たちに「あと数年待てば新薬が開発されます。それまでがんばって」という励まし(?)よりも心に響きました。……………伊藤

訪問看護と介護 第12巻 第9号 2007年9月15日発行(毎月1回15日発行)

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo©2007, Printed in Japan
1部定価1,260円(本体1,200円+税5%) 年ぎめ予約購読料13,200円(年間12冊, 消費税, 送料弊社負担)

発行:株式会社 医学書院/代表者:金原 優/販売部:03-3817-5657/社内案内:03-3817-5600

「訪問看護と介護」編集室:直通03-3817-5787 FAX 03-5804-0485 担当:富岡・伊藤・早田

Eメール houmon@igaku-shoin.co.jp 医学書院ホームページURL http://www.igaku-shoin.co.jp

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS <(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本紙の無断複写は著作権法上での例外を除き禁止されています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話03-3817-5670, FAX03-3815-8199)の許諾を得てください。本誌掲載論文・記事のタイトル頁最下段に記された「0917-1355/05/¥250/論文JCLS」は、1論文1回複写につき250円要することを明示したものです。これは表示のない論文等にも適用されます。JCLSへのご連絡の際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。